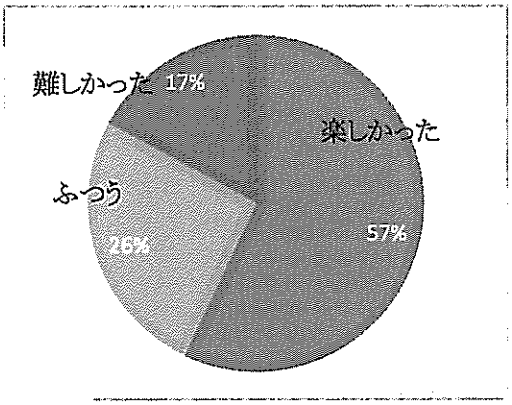
# 表現する喜びを味わい、発想豊かに美を求め続ける生徒の育成

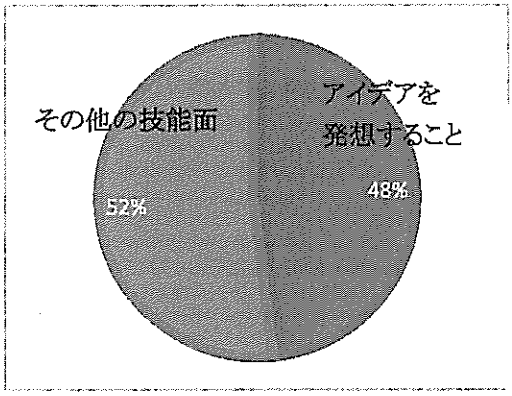
多治見市立陶都中学校　教諭　蓑　梨絵

## Ⅰ　生徒の実態

４月当初、１年生に図画工作について意識調査アンケートを行った。




【図１　１年生４月の図画工作に対する意識】




【図２　１年生「難しかった」生徒の中で、困難を感じたこと】

図画工作の授業について、１８６人中１０６人が「楽しかった」と答え、半数以上の生徒が図画工作を楽しんで行っていたことがわかる。（図１）

生徒は、図画工作において「絵心がない」「上手に作れるだろうか」ということを気にしている生徒が多い。つまり、技能面における自信がない。（図２）

また授業において、生徒の様子を見ていると、作品のアイデアを発想するときに特に進度の差が見られる。「楽しかった」と答えた生徒の多くが「アイデアを発想することが楽しかった」としているため、得意な生徒はどんどんアイデアが浮かぶ一方、苦手な生徒は悩む姿が多く見られた。

技能も大切ではあるが、まずは発想する力を身につけ、自分のアイデアに自信をもつことが大切であると考える。発想する力を磨くことによって高い技能が活きたり、技能に自信がない生徒も「いいアイデアを考えられたから、仕上げもよりよくできるようにがんばろう」と意欲をもつことにつながると予想した。

だからこそ作品を制作する最初の大切な過程であるアイデアを考えることにおいて、発想・構想の能力を引き出し、広げ、深める指導が必要であると考えた。

## Ⅱ　願う生徒の姿と授業の要件

生徒の実態をもとに、願う生徒の姿を明確に実現できるような授業の要件を次のように考えた。

**＜願う生徒の姿＞**

**○自分らしさを表現するアイデアや、技法の使い方について考え、唯一無二の色、形、表現を追求する姿**

**○より美しいものを求め、自分のアイデアを洗練していく姿**

**○自分の作品のよさと、仲間の作品のよさを、学び合いにより見つけ、作品を見つめる視野を広くする姿**

↓

**＜授業の要件＞**

- **提示した技法から選択し、アレンジを加え、自分だけの表現を見つけることのできるような、幅広い技法の設定と、アイデアを考えやすくするための整理された手順の提示**
- **どのような点を試行錯誤すると、より美しい作品にすることができるか、明確な要点の提示**
- **グループ交流や学級交流、中間交流で、学び合うことができる授業づくり**

そこで主題を

**表現する喜びを味わい、発想豊かに**
**美を求め続ける生徒の育成**

とし、実践を進めることにした。

## Ⅲ　研究仮説と研究内容

### 1　研究仮説

生徒がよりよいアイデアを求めて試行錯誤を行い、自分の表したい、伝えたい「美」へのこだわりをもつことで、発想し表現する喜びを味わうことができる。

### 2　研究の内容

Ⅱの＜授業の要件＞より、研究内容を以下の３つに設定した。

**＜研究内容１＞**
**さまざまな表現の手段となる技法を提示し、アイデアを考える手順を示すことで、発想を促し、唯一無二の作品を生み出すことができる**

**＜研究内容２＞**
**「美」とは何か考えることで、自分の発想を見直し、より美しいものを求めて試行錯誤することができる。**

**＜研究内容３＞**
**グループ交流や学級交流を通して、自分とは違ったよさや美しさを学び合うことができる。**

## Ⅳ　研究仮説の検証

次の題材において実践をした。

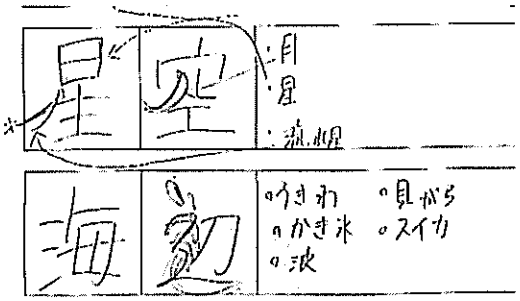
**実践「伝える文字」**（デザイン：アクリルガッシュ 平面作品）
**学年：中学１年生　　実施：９～１２月**

１年生にとってはアクリルガッシュを使って制作する初めての題材である。レタリングの技法を習得し、二字熟語と絵を組み合わせたデザインを考え、アクリルガッシュで彩色する。

## Ⅴ　結果と考察

### 1　研究内容１について

生徒Ａのアイデアスケッチから

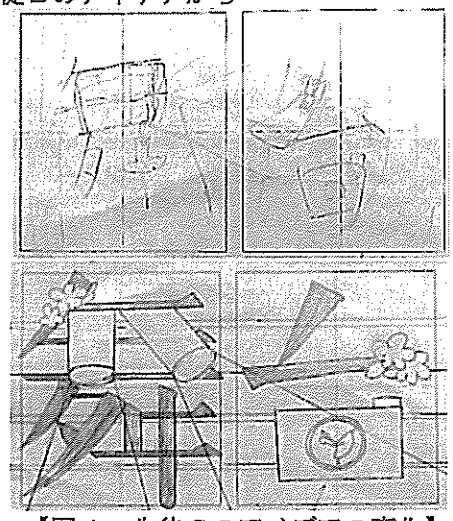



【図３　生徒Ａのアイデア】

教師の完成作品だけでなく、完成に至るまでのアイデアスケッチの例をプリントに載せ、手順が踏めるようにすることで、全くの無から生み出すのではなく、整理された順序に自分のアイデアを当てはめていき、発想をしやすくすることができたと考える。（図３）

### 2　研究内容２について

生徒Ｂのアイデアから



【図４　生徒Ｃのアイデアの変化】

生徒Ｂは始め、舞台衣装を「台」の１画目に斜めにつけ、スポットライトは「舞」の形に無理に合わせている。文字の形に囚われすぎていた。

しかし、カメラのレンズの中に踊り子を収めることで舞台というテーマと衣装を生かした。スポットライトは思い切って前面に配置することで、インパクトが強くなった。（図４）

３　研究内容３について

配色計画における「ミニ先生」とのスクランブル交流の設定により、積極的に仲間の元へ行き、共に配色を考えたり、アドバイスしたり姿が見られた。（図５）多くの言語活動が行われ、迷っていた生徒も次第に色を決定しきることができた。

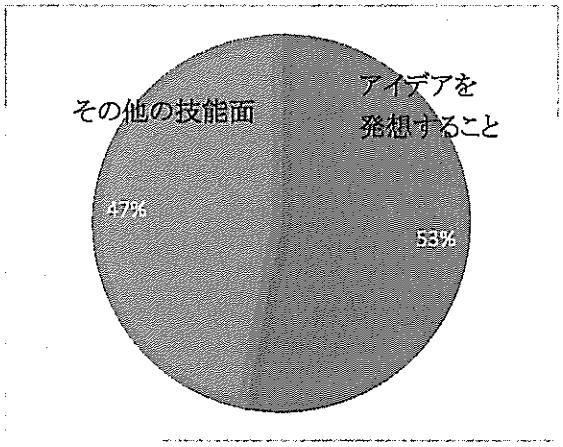
| 配色計画　スクランブル交流を終えての感想 |
| --- |
| 「ここは何色がいいと思う。」と仲間に聞いて、たくさん意見を取り入れることができました。 |
| 仲間のアドバイスを聞いて、最初よりも明るい配色にすることができた。 |
| 仲間の作品を見たり、アドバイスを聞いたりしながら配色計画ができた。その結果、色が増えすぎないよう、近くの色との関係性を考えて工夫できた。 |
| 「音楽」だったら暖色のイメージ、など背景の色やグラデーションについて提案することができた。 |

【図５　スクランブル交流で「ミニ先生」がアドバイスをしている様子】

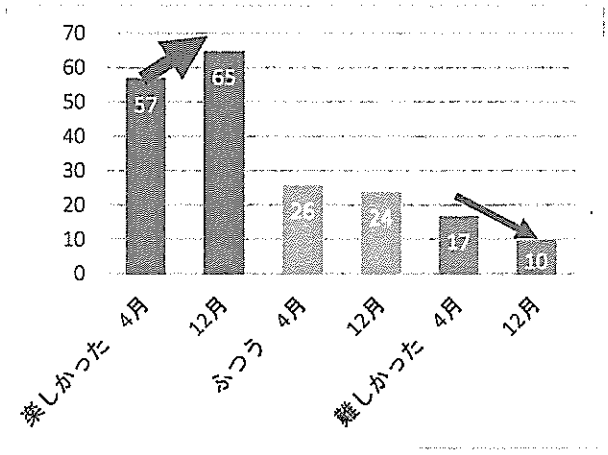
## Ⅵ　成果と課題

＜成果＞

１年生に、４月から１２月までの美術について、再び意識調査アンケートを行った。




【図６　１年生　楽しかったこと】




【図７　１年生１２月の美術に対する意識】

「楽しかったことは何か」という問いの回答に「アイデアを発想すること」を選択した生徒は全体の５３％であった。（図６）半数以上の生徒が発想することに楽しさを感じている。

その結果１年生１８３人中１１９人が、中学校美術の授業について「楽しかった」と答えた。４月と比べて８ポイント増えた。また「難しかった」と答えたのは１９人で、４月と比べて７ポイント減った。（図７）

さらに「成長したことは何か」という問いについては、以下のような回答が多く見られた。

- 図画工作の時はまねばかりだったけれど、美術では自分らしい作品を考える事ができた。
- 仲間のよさを取り入れながら、よいアイデアを考える事ができた。

提示作品の活用や発想の手順提示、スクランブル交流を通して、発想を広げることや、楽しく発想することができたという実感と満足感を感じせることができたと考えられる。

＜課題＞

美術が「楽しかった」と答えた中には、技能面に

ついての満足度が高い生徒も多い。しかし、本当によいアイデアであってこそ、初めて技能の高さが作品に活きてくる。ただきれいに塗れた、バランスよく描けたというだけではなく、よいアイデアも考える事ができたという満足度も高めていきたい。